この冊子の他の記事はこちらのページをご覧下さい。
https://www.naro.go.jp/laboratory/nire/mail_magazine/genre/kusabana.html

農村工学研究部門メールマガジン

農村の草花

記事・タイトル	配信No.	配信年月
藪の中でひっそりと咲く花の「隠された心」とは～ヤブラン～	第134号	2021年7月
この夏のような悩んで眠り猛をこさえても点がよまる!?～チドメグサ～	第133号	2021年6月
夜の誘惑で月を見上げているあの草は?～コマツヨイグサ～	第132号	2021年5月
タンポポの繁栄?いえいえ、そっくりだけど別種の外来種ですよ～ブタナ～	第131号	2021年4月
舞を祝して恒となす 来年度は人々が集い談笑し合える年になりますように ～ナンテン～	第127号	2020年12月
ガーデニングなどでお悩みのあの草は咲止めの薬草だった～リュウノヒゲ～	第126号	2020年11月
中国製食の薬物査にも登場し、今でも日常的に飲用するスーパー健康食品～チャノキ～	第125号	2020年10月
惟貴妃が愛し、あの者にも登場する赤い実は世老良寿の薬～クコ～	第124号	2020年9月
明智光秀の家紋で有名なあの草は咲止めにも魔除けにもなる?～キキョウ～	第123号	2020年8月
邪気を払う?田ん圃で最も駆逐されるあの草の名の由来は……コナギ	第122号	2020年7月
今年最後に紹介する草花は"善良で陽気"な将来株～クラジロチチコグサ～	第117号	2019年12月
遠ばたでみかける試験管ブラシのような穂の草は?～チカラシバ～	第116号	2019年11月
秋絣後の田んぼで見かける"黒い芽"の正体は～クロクワイ～	第115号	2019年10月
秋の野辺によく目立つあの花はサラダ菜のお関なんです～アキノノゲシ～	第114号	2019年9月
片り田の宝もの探しにはうってつけの小さな絶滅危惧種 ミズマツバ	第113号	2019年8月
とっても大きそうな名前ですが、実際は地べたに伸びる小さな草花です ～コニシキソウ～	第112号	2019年7月
初夏から梅雨明けにかけて里山にみられる万葉歌にも好んだ白い花 ～ウツギ～	第111号	2019年6月
田んぼに浮かぶコケだけど直伝にしないでね! ～イチョウウキゴケ～	第110号	2019年5月
春の風薫るころ、野良をピンク色に染め上げる中国由来の花 ゲンゲ	第109号	2019年4月
来年は心清らかに過ごせますように お正月の縁起物 ～クラジロ～	第105号	2018年12月
この季節、遠慮でよく見かける熱帯からやってきた「ひっつきむし」 ～コセンダングサ～	第104号	2018年11月
秋も深まる中、大百の二丸殿さまを見つけてみよう ～ツルマメ～	第103号	2018年10月
人生いろいろ、好みもいろいろ、夢たべで食う虫も好きず、の夢とは?～ヤナギタデ～	第102号	2018年9月
残暑の中、このピンク色の花穂が目立ち始めると、秋の気配を感じさせます ～ツルボ～	第101号	2018年8月
最近では水田の中も「殺米かり」が進んでいるんだ ～アメリカアゼナ～	第100号	2018年7月
手入れが行き届かないと、貧乏神のようなこの草に襲われる!?～ヤブガラシ～	第99号	2018年6月
水辺で良くみかける貴色いアヤメの正体は競合力の強いインベーダー ～キショウブ～	第98号	2018年5月
春のアゼを代表するタンポポによく似た丹り取りに強い事 ～オオジシバリ～	第97号	2018年4月
寒天を印で縁起のよい冬緑性のシダ ～フユノハナワラビ～	第93号	2017年12月
晩秋の山野に咲く黄色の小花は、まるでカリがたい薬膳さまのよう ～ヤクシソウ～(4)	第92号	2017年11月
片り田によく見られる小さなヒマワリのような花 ～タウコギ～	第91号	2017年10月
毎年、この時期に現れ消えていくあの花は ～ヒガンバナ～	第90号	2017年9月
とても乙女が口に出しては恐ぶとが出てきないかわいそうな花 ～ヘクソカズラ～	第89号	2017年8月
ひりりと辛くはないけど、見向きもされずに消えていくのはイヤセず ～サンショウモ～	第88号	2017年7月

農村工学研究部門メールマガジン　購読申込はこちら
https://www.naro.go.jp/laboratory/nire/mail_magazine/index.html

禁・無断転載

2022年農研機構　秋のオンライン一般公開　特別冊子

農村の草花

農村にみられる薬になる草花　編

この冊子は、農村工学研究部門メールマガジンから一部抜粋しています。

農研機構　農村工学研究部門

分布：北海道南部以南

ドクダミ　（ドクダミ　科）

ホッタイニア　コルダータ
学名：*Houttuynia cordata*

毒痛み　別名：ジュウヤク(十薬)，便所草，白雪姫，地獄蕎麦

＜主な生育場所＞
日陰や半日陰の路傍や田畑の畦畔，畑，樹園地，休耕田，庭先，林縁，林床，そして水路沿いなどに生育する。やや湿りがちな環境に多い。また，わざわざ栽植する場合もあり，大家近くによく見かける。

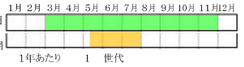
＜特　徴＞
白い根茎が長く伸び，しばしば群生する多年草。全体無毛で，独特の臭気がある。茎は紅紫色，葉は暗い緑色で，ハート型で先がとがる。5～7月ごろ，茎の先に花穂をつける。4枚の白花弁のように見えるのは，葉が変化した総苞(そうほう)で，実際の花は淡緑色の円柱形であり，小花が集まった集合花である。

名前の由来：全草に臭気があり，有毒の上うに思われたことから「毒溜め」「毒痛み」と呼ばれ，やがてドクダミと転化した。また，多くの薬効があるため，十薬(じゅうやく)と呼ばれる。

＜農業との関係＞
樹園地や畑地にも生え，根茎が長く伸びて繁殖力も旺盛なので，ときに害草として扱われることもある。一度，繁茂すると根絶することは難しい。一方，ドクダミの臭気には害虫の忌避効果もあるとされ，茎葉をマルチとして利用したり，全草の煮汁を土壌に撒くと線虫などに効果があるという。

半日陰に群生するドクダミ

＜生活史＞　関東 地方の例(目安)



＜類似種＞　ドクダミよりも湿気のある水辺に生え，やはり同様の臭気を有するハンゲショウ(半夏生)は陽当たりの良いところを好む。また，葉も細長く，花期には花のすぐ下に位置する葉の表面が白く変化する。

白い部分は葉が変化した総苞で，塔状にみえるのが集合花

＜一言うんちく＞
ドクダミの独特の臭気の成分は，デカノイルアセトアルデヒドやラウリルアルデヒド － デカノイルアセトアルデヒドですが，いずれも火に弱く高温に晒せば分解されます。そのため，テンプラやバター炒めなどにすると香味と美味しく食べることができます。

＜人との関わり合い＞
ドクダミは古くから知られている民間薬で，アレルギー性鼻炎，喘息(ゼンソク)，腎臓病，膀胱炎，胃腸虚弱，腹痛，便秘，下痢止め，高血圧，神経痛，打ち身，皮膚病，水虫，あせも，湿疹，吹き出物，化膿止め，火傷(やけど，解毒，洗浄，駆虫，風邪予防などに効果があるとされる。これらの薬効のため，天日で干したものを煎じたドクダミ茶としてもよく利用される。また，若い芽のテンプラのほか，茹でた後に水で新し味噌とミリンで和えたり，地下茎も茹でて酢味噌で和えて食べる。

＜俳句や短歌への登場＞
【季語：夏】
どくだみの花と夏天の饒と白し　(山口青邨)　　十薬や四つの花びらふこれざる　(池内友次郎)
どくだみの花のにほひを思ふとき　青みて迫る若が まなざし　(北原白秋)
その日までここすなほにわれありき　君と恐れしどくだみの花　(北原白秋)

分布：全国

ゲンノショウコ　（フウロソウ　科）

ゲラニウム　ツンベルギイ
学名：*Geranium thunbergii*

現の証拠　別名：ミコシグサ，タチ・マチグサ，センニンタスケ，コウバウグサ，フウロソウ

＜主な生育場所＞
野原，路傍，畦畔，法面，樹園地などの草地に普通にみられる。日当たりの良い場所を好むが，草丈の高い草などで被覆された半日陰でも生育する。やや乾いた場所に多いが，湿地周辺でも見られる。

＜特　徴＞
多年生で全体にやや下向きの毛が多い。茎は地面を這ってよく分枝し，茎先は立ち上がる。葉は対生し，長い葉柄の先に掌状に5深裂する葉をつける。上部の葉は3裂，夏から秋にかけて茎先や葉鞘から花柄を伸ばし，1～1.5cmほどの白または赤色の5弁花を2個ずつつける。果実は熟すと5裂し，種子を巻き上げ遠くに散布する。

名前の由来:雷からよく効く胃腸薬として知られ，痙じて飲むと，たちまちのうちに効果が現れるということで「現の証拠」。別名のみこしぐさとは，果皮が熟すと錐爽の扇状の形になることから。

＜農業との関係＞
水田畦畔や樹園地などでも見られ，耕起には弱いので，水田内や樹園内に生育することはほとんどない。草丈の低い草地を好み，比較的刈り取りにも強いので，畦畔草地の適切な管理摂標種に利用できる。除草剤にも弱いようで，除草剤の散布歴のある水田畦畔には見ることができない。近年，手入れの悪い畦畔や除草剤管理の畦畔が増え，農耕地周辺では減少しつつある。

東日本に多い白花タイプ(花弁に紅脈が目立つ)

＜生活史＞　関東 地方の例(目安)

＜類似種＞　外来種のアメリカフウロの葉は，切れ目が深く3～7裂し，裂片はさらに2～3回切れ込む。開花期が5～6月とゲンノショウコより早い。近年，各地で逸出し雑草化している栽培種のヒメフウロには，独特の臭気があり，全草が粘る。

＜一言うんちく＞
葉茎として下痢止めの主成分はタンニンの一種ゲラニインですが，ゲラニインは下剤として働き，相反する二面性を持つため，飲み過ぎても便秘になりにくいです。このようにゲンノショウコは副作用が少ないのも特徴で，昔から お茶として常用され，「医者いらず」とも呼ばれています。

西日本に多い赤花タイプ

＜人との関わり合い＞
下痢止めとしては，真夏の花が咲いている時期に，全草を採取し，水洗い後日光乾燥させたものを煎じて飲む。また，健胃，整腸，利尿，便秘，高血圧の予防に効果があり，副作用の少ない優れた薬草として，昔から利用されてきた。現在でも製薬用の材料として需要が高いが，栽培が難しいため，朝鮮半島から輸入されている。また，食用にもなり，葉と花を低温でゆっくり揚げて天ぷらにする。塩茹でし，水に晒し細かく刻んで佃煮にすることもできる。

＜俳句や短歌への登場＞
【季語：夏】
夕明けげんのしょうこを次々に人たづさへて現るる坂　(与謝野　晶子)
げんのしょうこのおのれひそかな花と咲く(種田　山頭火)
着火点げんのしょうこの一輪に　(増田　明美)

分布：全国

ウツギ　（キジカクシ科）

ユリオレ　ムスカリ
学名：*Lilium musari*

藪　鬱　別名：ヤマ・ムスカリ，ハシカリ，チ・ッポ(ヒケ・ッポ)，ネコノメ，藪門冬

＜主な生育場所＞
多数の草が群生し30～60mほどの高さの半低木。樹形の原型は半円。日当たりの良い場所を好むが，草丈の高い草などで被覆された半日陰でも生育する。やや乾いた場所に多いが，湿地周辺でも見られる。

＜特　徴＞
葉は対生し，長さ30～60mmほどの楕円形で，縁は全体に細かい鋸歯がある。葉の裏面は白粉を帯びている。花は5月ごろ，葉の脇から長い花柄を伸ばし，先端に1～2個ずつ下向きに開く。花冠は6弁花で長さ15～18mmほどの筒状で先端は6裂し，外側は白粉を帯びている。雄しべは6本で花冠の内側に付く。雌しべは1本で花冠と同じ長さ。果実は直径1mmの球状で，熟すと赤色になる。

名前の由来：ムスカリは古くから知られている民間薬で，アレルギー性鼻炎，喘息(ゼンソク)，腎臓病，膀胱炎，胃腸虚弱，腹痛，便秘，下痢止め，高血圧，神経痛，打ち身，皮膚病，水虫，あせも，湿疹，吹き出物，化膿止め，火傷(やけど，解毒，洗浄，駆虫，風邪予防などに効果があるとされる。これらの薬効のため，天日で干したものを煎じたドクダミ茶としてもよく利用される。また，若い芽のテンプラのほか，茹でた後に水で新し味噌とミリンで和えたり，地下茎も茹でて酢味噌で和えて食べる。

＜農業との関係＞
やや日陰の湿った樹園地では一面に繁茂してしまう害草となることがある。

密集した群落

＜農業との関係＞
身水雑用にすぐれた植物。乾燥・保湿性に優れ，軽くて丈夫なので，農業用資材として利用できる。また，観賞用としても人気があり，鉢植えや庭園の飾りとして利用される。

栽培(ハダカ)ムスカリの花穂の変異株

＜生活史＞　関東 地方の例(目安)

＜類似種＞　ツルボ(1月)　ツルボ(1月)　ツルボ(1月)